

平成26年5月16日

平成24年度建設副産物実態調査結果（中部地方版）

修正のお知らせ

標記において、修正がございますのでお知らせ致します。

ページ：参考1-5、参考1-9

1. 参考1-5

【修正前】

(2) 利用土砂の建設発生土利用率

・利用土砂の建設発生土利用率は、平成14年度以降減少傾向にあったが、平成24年度は大幅に増加した。

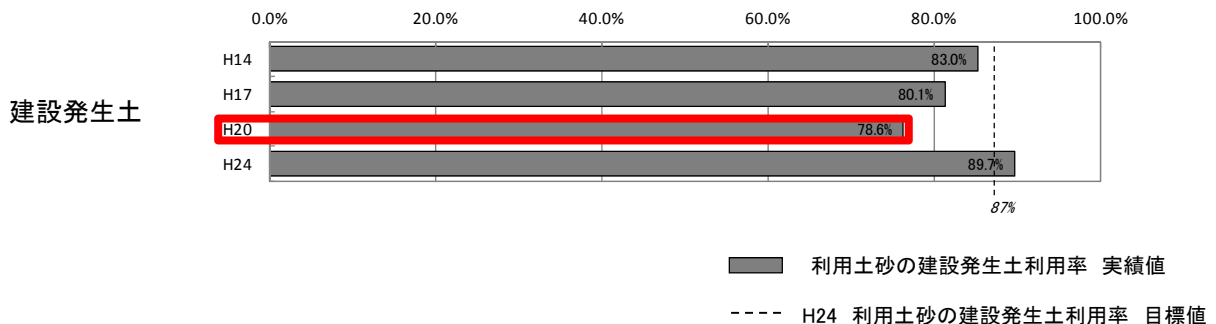


図4. 利用土砂の建設発生土利用率

【修正後】

(2) 利用土砂の建設発生土利用率

・利用土砂の建設発生土利用率は、平成14年度以降減少傾向にあったが、平成24年度は大幅に増加した。

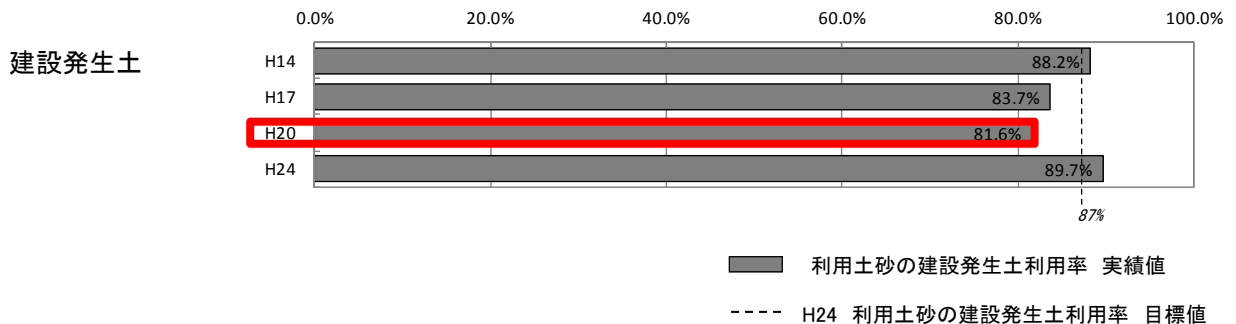


図4. 利用土砂の建設発生土利用率

2. 参考1-9

【修正前】

4. 地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

| | 岐阜県 | 静岡県 | 愛知県 | 三重県 | 中部 | 全国 |
|-------------------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| アスファルト・ コンクリート塊 | 100.0 (99.3) | 100.0 (99.7) | 99.8 (99.0) | 99.9 (94.6) | 99.9 (98.6) | 99.5 (98.4) |
| コンクリート塊 | 100.0 (97.3) | 99.9 (99.3) | 99.6 (98.4) | 99.5 (98.1) | 99.7 (98.5) | 99.3 (97.3) |
| 建設発生木材 (縮減除く) | 94.6 (81.0) | 93.3 (79.3) | 94.5 (83.9) | 91.3 (78.7) | 93.6 (81.6) | 89.2 (80.3) |
| 建設発生木材 (縮減含む) | 99.3 (86.6) | 97.7 (85.4) | 97.4 (86.5) | 96.2 (82.1) | 97.5 (85.6) | 94.4 (89.4) |
| 建設汚泥 (縮減含む) | 88.9 (91.8) | 90.9 (78.3) | 97.8 (96.2) | 89.5 (92.3) | 95.1 (92.7) | 85.0 (85.1) |
| 建設混合廃棄 物排出量 (万トン) | 5.5 (3.5) | 7.6 (9.1) | 23.2 (16.7) | 5.6 (8.2) | 41.8 (37.5) | 279.5 (267.0) |
| 建設廃棄物全体 | 98.5 (95.1) | 98.1 (95.5) | 97.8 (95.0) | 96.3 (91.3) | 97.7 (94.7) | 96.0 (93.7) |
| 利用土砂の 建設発生土利用率 | 85.1 (84.7) | 93.6 (72.0) | 87.4 (70.3) | 91.3 (82.6) | 89.7 (77.3) | 88.3 (78.6) |

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1: 1段目は、平成24年度の値

2段目の()は、平成20年度の値

注2: 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減除く)：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量
- ・建設汚泥 (縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量
- ・土砂 (現場内利用含む)：
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。

また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。

【修正後】

4. 地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

| | 岐阜県 | 静岡県 | 愛知県 | 三重県 | 中部 | 全国 |
|-------------------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| アスファルト・ コンクリート塊 | 100.0 (99.3) | 100.0 (99.7) | 99.8 (99.0) | 99.9 (94.6) | 99.9 (98.6) | 99.5 (98.4) |
| コンクリート塊 | 100.0 (97.3) | 99.9 (99.2) | 99.6 (98.4) | 99.5 (98.1) | 99.7 (98.5) | 99.3 (97.3) |
| 建設発生木材 (縮減除く) | 94.6 (81.0) | 93.3 (79.3) | 94.5 (83.9) | 91.3 (78.7) | 93.6 (81.6) | 89.2 (80.3) |
| 建設発生木材 (縮減含む) | 99.3 (86.6) | 97.7 (85.4) | 97.4 (86.5) | 96.2 (82.1) | 97.5 (85.6) | 94.4 (89.4) |
| 建設汚泥 (縮減含む) | 88.9 (91.8) | 90.9 (78.3) | 97.8 (96.2) | 89.5 (92.3) | 95.1 (92.7) | 85.0 (85.1) |
| 建設混合廃棄 物排出量 (万トン) | 5.5 (3.5) | 7.6 (9.1) | 23.2 (16.7) | 5.6 (8.2) | 41.8 (37.5) | 279.5 (267.0) |
| 建設廃棄物全体 | 98.5 (95.1) | 98.1 (95.5) | 97.8 (95.0) | 96.3 (91.3) | 97.7 (94.7) | 96.0 (93.7) |
| 利用土砂の 建設発生土利用率 | 85.1 (81.2) | 93.6 (82.6) | 87.4 (82.8) | 91.3 (78.0) | 89.7 (81.6) | 88.3 (78.6) |

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1 : 1 段目は、平成24年度の値

2 段目の () は、平成20年度の値

注2 : 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊 :
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減除く) :
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減含む) :
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量
- ・建設汚泥 (縮減含む) :
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量
- ・土砂 (現場内利用含む) :
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。